

2020 盛岡地本

旅のプレゼント中止について！

これまで『旅のプレゼント』を青年部を中心として体にハンディキャップを持つ子どもたちとの交流をしてきました。『旅プレ』を通じて地域と生きる鉄道の重要性や、ヒューマンリズムの精神を学んできました。

また、この間参加した招待者からいただいた声や手紙には御礼と共に、駅設備の問題点、まだまだ交通弱者にとって利用しづらい点の改善に向けたアドバイスもいただき、鉄道のバリアフリー化への力にもなっています

18春闘以降は盛岡地本全体として、松尾八幡平にて開催してきましたが、今年は新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から残念ながら中止と判断しました。中止とはなりましたが「旅プレ」を通じた地域との交流、障害のある子どもたちにこれからも列車の旅をプレゼントするためにも来年に向けて歩みを進めていきましょう！

障害がある子を列車の旅に招待
JR東労組盛岡支部
JR東労組盛岡地方本部盛岡支部（鳴海忠執行委員長）は6日、障害のある子どもたちを宮古市の区界高原に招待する「列車の旅」をプレゼントした。

盛岡広域に住む小学生と家族ら約180人、組合員約180人が参加し、盛岡市の盛岡駅と山田線区界駅間を臨時列車で往復。区界では妖怪ウオッチの



2019年旅のプレゼントの写真

岡駅と山田線区界駅間を臨時列車で往復。区界では妖怪ウオッチの「子どもたちの笑顔から力をもらえる。列車に乗る楽しさを知ってもらい、家族の良い思い出づくりに協力できれば」と思いを込める。

ダンスなどを楽しみ、初秋の高原を満喫した。同事業は1992年から始まり23回目。列車の運行費は組合員のカンパで賄っている。車いすの長男ら家族で参加した盛岡市東安庭の看護師工藤貴美代さん（52）は「普段は車の移動が多いので楽しみにしていた」と感謝し、「小さな駅も自由に乗り降りできるバリアフリーを充実してほしい」と願っていた。

2014年9月7日 岩手日報

**来年また会える事を楽しみにして「旅プレ」が開催できる
東労組の組織強化・拡大を創り出していきましょう！！**

「東北三地本」で今すぐ検索！！
誰でも簡単にアクセス出来ます！→→→

